

今の車に乗るようになって半年以上が経過した。いつも音楽を聴きながら運転をしている。Spotifyのお世話になっている。今の車は、スマホを使うことが前提となっている。世の中全体が、スマホを持っているのが当たり前となっている。

前の車では、音楽CDを地道に車の内蔵HDに録音していた。その音楽CDは、いわゆるアルバムのため、私にとっては、聴きたい曲とそうでもない曲とが混在していた。そんなこともあり、お気に入りの曲を何度もリピートで聴くこともあった。

今度の車は、どうやって音楽を聴くんだと悩んだ。どうやらスマホを使うらしい。そもそもスマホでの音楽の聴き方がわからない。Amazon MusicやLINE MUSICなるものがあることは知っていた。だが、使ったことがなかった。

家人に相談してみた。いとも簡単に、「Spotifyがいいんじゃない」と返ってきた。言われるままに、スマホに Spotify を入れた。多少の困難を伴いながらも、スマホと車のディスプレイが繋がった。電話も使えるようになった。すると、車から音楽が流れるようになった。

とりあえず、松任谷由実、サザンオールスターズ、福山雅治などを、どんどん聞いていった。だが、これでは以前と変わらない。どうしても、そうでもない曲が入ってしまう。すると、ベスト版があることを知った。これはよかった。

しばらくして、家人と話していると、「お気に入りの機能があるんじゃない」と、またいとも簡単に言われた。やってみた。意外と簡単だった。これなら、自分のベストをつくることができる。調子に乗って、どんどん追加していった。100曲を超えた。テレビで懐かしい昭和の曲などが流れると、すぐに追加した。

ところが、こちらの思惑とは違った曲が流れる。リストの通りには流れない。理由は、無料だからである。こうやって、有料へと誘い込む作戦だということを理解した。まんまと相手の策略に乗るのは嫌だった。だが、ストレスがたまる。聴きたい曲が流れてこない。

ついに、動き出すことにした。同様の機能をもつ他のものを比較してみた。それぞれ、一長一短はあるが、月ごとの料金に、それほど差はなかった。そうであれば、すでに使い慣れている Spotify となる。一度使い出したら、なかなか他のものに手を出さない自分の性質が出た。はれて有料ユーザーとなった。快適である。自分専用のベストが流れてくる。

いつの間にか、230曲となった。誰にも聞かれてはいないが、この中から、あなたのベスト3は聞かれたらと考えた。自分の好みがわかった。テーマで言えば、若者の別離となる。「いちご白書をもう一度」「木綿のハンカチーフ」「なごり雪」「22才の別れ」などである。もう一つあったことがある。これらの楽曲は、自分が小学校から中学校のときに流行ったものである。ということは、少し背伸びをしていたのだろうか。何だかわからないが、一種の憧れをもっていたのだろうか。聴きたい曲しか流れてこないというのは、なかなかいいものである。